

研究教育業績（過去5年間）

I. 研究業績

1. 主な発表論文

[原著論文]

- 1) 伊藤 真吾, 浅井 英樹, 川井 廉之, 周藤 俊治, 山川 祐子, 大田 祥子, 福島 英賢. 救急隊が搬送実施基準外で重症外傷を当救命救急センターへ搬送決定する要因について e-MATCH データを用いたデータセットの解析, 日本救命医療学会雑誌 **35** 7-13(2021)
- 2) 小松 知子, 宮崎 沙良, 重藤 良太, 横山 滉介, 大田 祥子, 李 昌一, 森本 佳成. てんかんの既往のある患者の亜酸化窒素吸入鎮静法の臨床使用について, 障害者歯科 **42**(2) 153-159(2021)
- 3) 小倉 憲一, 山川 祐子, 大鋸 立邦, 菊川 哲英, 若杉 雅浩, 廣田 幸次郎, 大田 祥子. 富山県ドクターヘリ導入後の医療経済効果, 日本航空医療学会誌, **19**(1), 18-25 (2018).

[総説]

- 1) 神原 咲子, 大田 祥子, 山岸 暁美, 岡本 正, 加藤 尚徳. 災害保健医療に資する個人データ利活用と課題, BIO Clinica, **35**(3). 253-256(2020).

[著書]

- 1)

[その他]

- 1)

2. 主な学会発表

[国際学会]

- 1) Yamakawa Y., Ogura K., Ohta S., Medical and economical effects by introducing helicopter emergency medical service (HEMS) in Toyama prefecture, Japan, Air Medical Transport Conference (AMTC) 2018, August, Phoenix (2018)
- 2) Yamakawa Y., Ohta S., Ohnishi J., Natsui J., Miyagawa S., Wakita N., Measurement system of quality indicators for assessing healthcare quality, 18th World Congress of the International Federation of Health Information Management Association (IFHIMA 2016), October, Tokyo (2016)

[国内学会]

- 1) 被災者を中心とした情報取得の課題 PLR の活用に向けて, 大田 祥子, 宮川 祥子, 宮崎 浩之, 神原 咲子, 日本災害看護学会, 9 月, オンデマンド (2021)
- 2) 鴻巣市の国民健康保険被保険者の健康診断結果から見たメタボリックシンドロームの有無による医療費の比較, 松野 雄気, 根岸 要, 望月 千遥, 森田 夏海, 横田 彩香, 町永 佳世, 太田 友三子, 脇田 紀子, 大田 祥子, 日本診療情報管理学会, 9 月, オンライン (2021)
- 3) 糖尿病患者のニーズに応じた個別栄養指導のあり方 インターネット検索ワードからみる栄養指導

ニーズの検討, 大田 祥子, 橋本 知子, 太田 友三子, 山口 裕子, 松岡 幸代. 日本糖尿病学会, 5 月, オンライン (2021)

- 4) ガイドラインからみた食事指導箋と栄養指導の標準化の検討, 大田 祥子, 橋本 知子, 山口 裕子, 松岡 幸代. 糖尿病学会 関東甲信越地方会, 1 月, 東京 (2021)
- 5) 「東京オリンピック開催を見据えて:大都市部のマスギャザリング時の MCI 対応」 動的シミュレーションモデルを用いた MCI に対する医療需給評価, 問田 千晶, 森村 尚登, 大田 祥子, 服部 潤, 服部 響子, 内山 宗人, 高橋 耕平, 本多 英喜, 中川 儀英, 竹内 一郎, 松田 潔, 吉原 克則, 浅利 靖, 横田 裕行, 災害医療リスクリソースに係る研究会, 日本災害医学会総会, 2 月, 神戸 (2020)
- 6) 首都直下地震を想定した医療供給力指標の定量化, 問田 千晶, 大田 祥子, 田中 淳, 野口 英一, 高橋 耕平, 猪口 正孝, 竹島 茂人, 清田 和也, 蛭間 芳樹, 森村 尚登, 日本救急医学会総会, 10 月, 東京 (2019)
- 7) 国際的な大規模イベントにおける救急災害医療体制 2020 年東京オリンピック・パラリンピックにおける救急医療需給均衡度に応じた体制の構築, 森村 尚登, 横田 裕行, 大友 康裕, 坂本 哲也, 猪口 正孝, 山口 芳裕, 新井 悟, 問田 千晶, 大田 祥子, 服部 潤, 高橋 耕平, 厚生労働省科学特別研究事業「2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けての救急・災害医療体制の構築に関する研究(主任研究者:横田裕行)」研究班, 日本救急医学会総会, 10 月, 東京 (2019)
- 8) 富山県における標高差によるドクターヘリの有効性, 山川 祐子, 小倉 憲一, 松井 恒太郎, 若杉 雅浩, 大田 祥子, 日本航空医療学会, 11 月, 富山 (2019)
- 9) 医療費から見る地域の健康課題, 矢吹 優芽, 矢口 真穂, 太田 友三子, 大田 祥子, 脇田 紀子, 日本診療情報管理学会学術大会, 9 月, 大阪 (2019)
- 10) 都道府県の情報公表サービスによる在宅診療の応需状況について, 福吉 真希, 山川 祐子, 大田 祥子, 大西 丈二, 東海公衆衛生学会, 7 月, 名古屋 (2019)
- 11) 大田 祥子, 山川 祐子, 福島 英賢, 川井 康之, 渡邊 知朗, 奥地 一夫, 脳神経外科救急における情報通信技術(ICT)の利用 脳卒中患者における病院前搬送データと入院後予後の関連, 日本脳神経外科救急学会, 2 月, 奈良 (2018).
- 12) 奥地 一夫, 福島 英賢, 瓜園 泰之, 川井 廉之, 渡邊 知朗, 大田 祥子, e-MATCH を用いた 3 年間のデータで見えた奈良県の救急応需改善の成果, 第 45 回日本救急医学会総会・学術集会, 10 月, 大阪 (2017).

3. その他特筆すべき研究業績

[研究費の受け入れ状況]

- 1) 神原咲子 (代表), 大田祥子 (分担), 曾和具之 (分担), 公益財団法人一般用医薬品セルフメディケーション振興財団助成, 健康危機管理・防災のためのセルフメディケーションボックスの開発, (2021.7-2022.3)
- 2) 大田祥子, 日本薬科大学研究助成金, 栄養士による糖尿病遠隔療養指導のあり方の検討および指導者育成プログラムの開発, (2019.8-2020.9)
- 3) 神原咲子 (代表), 山岸暁美 (分担), 大田祥子 (分担), 山田 寛 (分担), 木下真里 (分担), 岡本 正 (分担), 国立大学法人大阪大学「グランドチャレンジ研究」, 災害対応に資する PLR の事前整備と利用モデルの検討, (2019.7-2021.3)
- 4) 森村尚登 (代表), 田中淳 (分担), 野口英一 (分担), 問田千晶 (分担), 高橋耕平 (分担), 猪口正孝 (分担), 大田祥子 (分担), 竹島茂人 (分担), 清田和也 (分担), 蛭間芳樹 (分担), 厚生労働科

学特別研究事業，大規模災害に対する地域医療計画策定のための新たな需給均衡指標（災害医療リスクリソース比）の導入に関する研究，（2018.4-2021.3）.

- 5) 森村尚登（代表），伊藤重彦（分担），内田元高（分担），下枝昌司（分担），服部良一（分担），真弓俊彦（分担），田邊晴山（分担），櫻井淳（分担），杉田学（分担），織田順（分担），林靖之（分担），六車崇（分担），問田千晶（分担），竹中ゆかり（分担），北小屋裕（分担），大田祥子（分担），有馬陽一（分担），消防防災科学技術研究推進制度，緊急度判定プロトコルの精度の向上・現場での活用に関する研究，（2018.4-2020.3）.
- 6) 大西丈二（代表），大田祥子（分担），鈴木裕介（分担），科学研究費補助金基盤C（文部科学省），性
期病院におけるフレイルおよび高齢者の総合的アセスメントに関する研究，（2017.4-2022.3）

[その他（特許など）]

- 1) 青木則明，大田祥子，健康教育装置、健康教育方法、及び健康教育プログラム、並びに健康教育システム（特開 2005-049671）（2005）.
- 2) 青木則明，大田祥子，診療記録・支援システム，（特開 2010-205227）（2010）.
- 3) 青木則明，大田祥子，救急医療管制支援システム及びサーバ並びに携帯端末，（特開 2014-081751）（2014）.

Ⅱ．教育業績

1．担当授業科目

2021 年度

- 1) 医薬学英语
2) 公衆衛生学
3) 医療経営学

2020 年度

- 4) 医薬学英语
5) 医療経営学

2019 年度

- 6) 医薬学英语
7) 医療経営学

（以下〇〇大学での実績）

2021 年度

- 1) 慶応大学看護学部ヘルスケア情報学（オムニバス）

2020 年度

- 2) 慶応大学看護学部ヘルスケア情報学（オムニバス）

2019 年度

- 3) 慶応大学看護学部ヘルスケア情報学（オムニバス）

2. その他特筆すべき教育業績

- 1)
- 2)